

(別紙様式3) 令和6年度学校評価学校関係者評価報告

学校名〔 京丹後市立久美浜小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
教育目標【久美浜学園全体】 「ふるさとを愛し 意欲的に学び やさしい心を持ち 根気強く努力する子どもの育成」 目指す子ども像【久美浜学園全体】 (1) 意欲的に質の高い学力を身に付けようとする子ども(知) (2) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心を持つ子ども(徳) (3) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども(体) 重点目標【久美浜学園全体】 「意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成」 ～ 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 ～ 指導の重点『学力の向上』 ①基礎・基本の徹底②主体的に学ぶ力の伸長 ③家庭学習時間の確保 校訓「一生懸命」を意識した教育活動の推進 指導キーワード「【子ども主体】」の教育の推進		○成果 目指す児童像の各学級、事業への浸透や具現化が進んだ。 教職員の強みを生かした協働性のUP ・コミュニケーションが取れ、助け合える働き方の見直し ・下校早める、行事の精選等働き方が見直される。 研究推進の動きにより、児童の主体性が向上した。 ◇改善点 学校業務運営上の改善点 業務推進上、「何のための取組」なのか明確化にさせる。 事業の主体となる手立てを考え、支援する。 取組の途中で交流し分掌の仕事一人で抱えない。 担当一人に任せない。 校外研修を伝達する。 早めに計画準備し、近隣で声を掛け合う。 会議や研究会でグループ協議を入れ共通理解を図る。 「学校が楽しい」との回答児童の減少。 不登校傾向児童が3年続きゼロが途絶えた。		目指す児童像【久美浜小学校】 「つながり、たくましい 久美っ子主役」学校づくり ～将来の社会的自立へ～ 特色ある学校、を目指す。 ①「主体的・意欲的に学習する児童へ」 ＝「探究的な学び」「主体的な学び」 ・「わかった喜び」を大切にする授業づくり ②「地域とともにある学校」づくり ・子どもの元気を地域に ・学校、社会教育、地域との連携、協働 ・「久美浜を支える人づくり」の取組 ③本物に触れ、出逢う「地域に開かれた教育課程」 ・外部の方の支援、出前授業、本物にふれる体験 等 ・ICT(電子黒板、タブレット等)を効果的に活用した授業づくり ④研究推進のテーマ「生き生きと表現し、主体的に学習する子どもを育成する生活科の創造」 ～自分・人・地域がつながり、かかわる～教育活動の推進 ・京都府小学校教育研究会生活科指定校として総合と共に研究を推進し児童の主体性を育む ・リーディングDXスクール事業の教育実践を生かす ⑤働き方見直しを日々見つめ、教職員のウェルビーイングと子どもと向き合う時間を確保する。	
評価項目		重点目標		具体的方策	
諸計画及び各学園の重点等、保幼小中一貫教育として	教育課程 学習指導	生活科・総合を核とし他教科とも教育課程の編成 ①「主体的に学習する児童へ」＝「探究的な学び」 ②いきいきと自分の思いを表現する児童へ		「主体的・意欲的に学習する児童へ」 ① 生活科・総合的な学習の時間の研究推進の動きで「探究的な学び」を通じ、児童に思考力判断力表現力を培う学習内容を仕組む。 ②昨年度の実践を継承し ICT(タブレット)の活用等に関連付けた研究を目指す ③「本物に触れ、出逢う【社会に開かれた教育課程】」 外部の方の支援、出前授業、本物にふれる体験 等 ④地域の人的物的資源を有効に活用させていただく。クラブ活動、授業の外部講師、読書支援ボランティア等	
	生徒指導	豊かな人間関係を築き、学び合い、励まし合い、支え合う。 丁寧なアセスメントと不登校の未然防止に係る体制の確立を図る。		生徒指導4つの視点を土台とした学級経営 指導の重点化～「学び高め合う授業」と「支え認め合う学級」 ① 生徒指導の4視点を生かした学級経営と授業作り ② 児童の居場所・絆づくり(集団、体験活動) ③ 不登校傾向、いじめ等を全校一致した組織的指導 ④ 特性、学習進度に応じた個別最適な学びの場作り ⑤ 特性のある児童と家庭とのきめ細かな連携を組織的な進行管理のもとで進める。 ⑥ 久美っ子ルールの生徒指導部を中心に組織的な進行管理	
				成果と課題(自己評価)	
				学校関係者評価	
				○2学期、30名強の外部講師にお世話になり児童にとって本物に触れる機会となった。 ○生活科・総合の研究推進で授業改善を図り教員の実践が大いに進んだ。 ○人的資源の有効活用で「本物に触れる教育」を推進し児童の心に響く実践が進み、子ども達の目の輝きが多く見られ豊かな心を育んだ。 ○学園の動きと連動し生徒指導の4視点を意識した動きで児童の主体的な児童会活動が一層進んだ。○保護者、地域との連携によるあいさつを身に付けることが増えた。○不登校傾向ゼロに向け今後も一層家庭と連携していく。	
				・市域、学園内で実践を広く発信されている。思考力の育成、深い学びのために、タブレットの良さ・タブレット以外の良さを吟味して選択していくことも求められる。(タブレットのルール、モラルをしっかりと教え時間をしっかりと守らないと、視力も落ちる。・地域と連携し、子ども達に還元し創意工夫されていることが分かる。 ・学習発表会で、自ら意欲的に発表する姿に感動した。郷土愛につながっている。 ・子どもが主体となり行事等を通して支え認め合う学級作りが進んでいるように思う。 ・挨拶の声が数年大きいと聞いた。家や会社でもない大人が多いため働きかけてはどうか。 ・安心安全のため除雪の依頼をしてみるのも良いと思う。	

健康（体育）・安全	何事も最後まであきらめずにやり通すたくましい強い心を育てる。	目指す児童「たくましい 久美っ子」につながる具体策 ① 校訓「一生懸命」を意識した教育活動を推進する。掃除を協力してする子どもを育てる。 ・根気強く、一つのことを最後まで協力して行う態度を育てる。 例 朝マラソン、縄跳び、休み時間遊び ② 日常生活を当たり前にやり切る子どもを育てる。 5分前行動や「あいすつくろうよ」：生指上の行動の本校キーワード」の具現化を一層図る。 ・基本的な生活習慣、家庭学習、日常的な学校生活等 ③ 運動に親しみ、体力の向上を図る。（朝マラソン等） ④ 家庭と連携し、基本的な生活習慣、望ましい食習慣の育成を図る。	○マラソン練習、大会からたくましく頑張ろうとしている姿や掃除に懸命に取り組む姿から伝統的な本校の強みが生かされた。 ○安心安全な環境作りを図った（事故災害なし） △家庭での生活習慣の数値が例年低いため家庭との連携が必要である。	・基礎体力をつけてほしい。走り方、手の振り方など、基礎的な技能を身につけていくために、行事や取り組みだけでなく、日々の体育を大事にしてほしい。生涯スポーツの視点で運動のことを考えていく。 ・マラソン大会や運動面、今後も大切にしてほしい、気持ちもある。 ・久美浜の子らしく一生懸命に運動や勉強に取り組む様子がみられた。登下校については見守り隊の取組もあり、安心する。
開かれた学校づくり	社会に開かれた教育課程 の実現に向けたカリキュラムマネジメントの推進を図り「地域とともに育つ学校」を目指す。	特色ある学校「地域とともにある学校」づくり本物に触れ、出逢う「地域に開かれた教育課程」 ① 子どもの元気を地域に発信する ② 学園学校運営協議会、社会教育、地域との連携、協働（PTA、公民館、民生委員、区 等） ③ 「久美浜を支える人づくり」の取組 ④ 情報を関係機関、家庭・地域に適切に提供し信頼される学校づくり HP、便り等 ⑤ 外部の方の支援、出前授業、本物にふれる体験 等 ・ICT（電子黒板、タブレット等）を効果的に活用した授業づくり	○研究指定の実践から「地域をテーマ」にしていることで自ずと「地域とともにある学校作り」が年間を通し実践できた。 ○自治会、地域施設、警察との連携が一層進み、児童にとって豊かな心を育む機会になった。 △引き続き継承する。	・久美浜小では地域教材をふんだんに活用され、取り組むのはすごく良い。久美浜を支える人であってほしい。地域との関わりを多く持っておられ感謝している。 ・地域資源をどんどん活用していただいたら良い。協力もしたい。
特色ある学校づくり	研究推進のテーマ「生き生きと表現し、主体的に学習する子どもを育成する生活科の創造」～自分・人・地域がつながり、かかわる～2 年次目の一層の推進 京都府小学校教育研究会生活科指定校として市域・府域・全国へ授業作りの発信 ・リーディングDXスクール事業の効果的な教育実践の継承	① 生活科指定 2 年次として、総合的な学習の時間と共により授業力を磨き、探究的な学びの深化を図る。 ② 2 年次研究協議会での府市学園への発信 ③ リーディング DX スクール事業を生かした有効活用 ④ HP の更新を定期的に行う。また、授業参観、PTA 会議、懇談会等で積極的に情報の公開を行う。 ⑤ 児童主体の企画・運営を率先し取り組ませる。 ⑥ ICT 活用を今まで以上に推進させる。児童朝会、保護者アンケート、校務の ICT 化による働き方見直し 等 ⑦ 不登校傾向のゼロ維持のスキルを継続発展	○研究推進の動きにより教員の授業スタイルが変化し、結果子ども達自らがより主体的に課題を解決しようとする動きが活発に見られた。 ○第 2 次研究協議会により市域、学園内に広く実践を発信でき指定校の役割を若干果たすことができた。 △今後も家庭との連携を丁寧に進める。	・学習の評価って子ども達のやる気につながるようにするのは難しい。 ・ふるさと丹後を愛し、親しみを持ってくれる子ども達を育てていただき感謝している。地域から学ぶことはとても重要だと考える。継続し進めてほしい。
次年度に向けた改善の方向性	～令和 7 年度～ 目指す児童に向けて 私たち教職員は・・・ 生活・総合の研究を一層進め、児童主体で「つながり、たくましい、さらなる、久美っ子主役」の教育を目指し、将来の社会的自立を育む。 - 子ども主体の授業観へ 教師が「教える」授業から学習者が「学び取る」授業へ - 地域・保護者の支えを生かした教育活動（「本物に触れ、出会う教育課程」） - 安定した学級経営：生徒指導の 4 つの視点を生かす - 特性を踏まえた支援：個別最適な学び 指導の個別化 + 学習の個性化 - 斬新で、支え・相談し合える風通しの良い職員室 - ICT 活用をできる学年・できる教科等今まで以上：子ども主体 授業改善 - 異年齢活動の発展継承で子ども主体の児童会活動：チーム活動 等 - 校訓「一生懸命」を意識した教育活動			